

宇都宮溪嶺会

那須・甲子旭岳 2014/03/15～16

メンバー：落合（記録）、松村、上小牧、小濱

昨年の夏、軽い気持ちで訪れた阿武隈川源流域の沢登りが思いのほか我々を楽しませてくれた。その時甲子山の頂からみた旭岳が目にとまり、冬に登ろうと思い描いていたのがほんの半年前のことだ。

残雪期であれば簡単に登れてしまいそうだし、

厳冬であれば那須特有の風雪に頬を叩かれ登り応えがありそうだ。

旭岳は山腹を巻くように夏道はついているが、藪山である以上やはり冬に登りたい。

冬は比較的情報量が少なく、むしろそんなところに魅力を感じ惹かれていた部分もある。

『山頂直下は急斜面だが下りは懸垂になるだろうか？ロープは2本あった方が無難かな・・・』

那須は身近な山域ではあるが、冬の北那須は恥ずかしながら今まで訪れたことがなく、

メンバー一同ほぼ初見の山なので行ってみないことには分からない。

出来ることなら情報や既成ルートなどに左右されず、

登山本来の探究心と言っては大きさではあるが、そんな姿勢そのものに登山の価値を見い出して行きたい。

偵察は面白みに欠けるので、

想像力を掻き立てながら山行に向けて気分を盛り上げていくのは実に楽しい行為だ。

3/15（土） 晴れ時々曇り（稜線は曇りのち晴れ）

甲子温泉 7：20→甲子山 10：30→坊主沼付近幕営地 12：20

九十九折についている急登の夏道はきれいに藪が隠れていて直登で進んでいく。

ここ数日は誰も入っていないようでトレースは付いていなかった。

日差しもあり天気はいいが、稜線は雲に覆われたままで旭岳はなかなか顔を出してくれない。

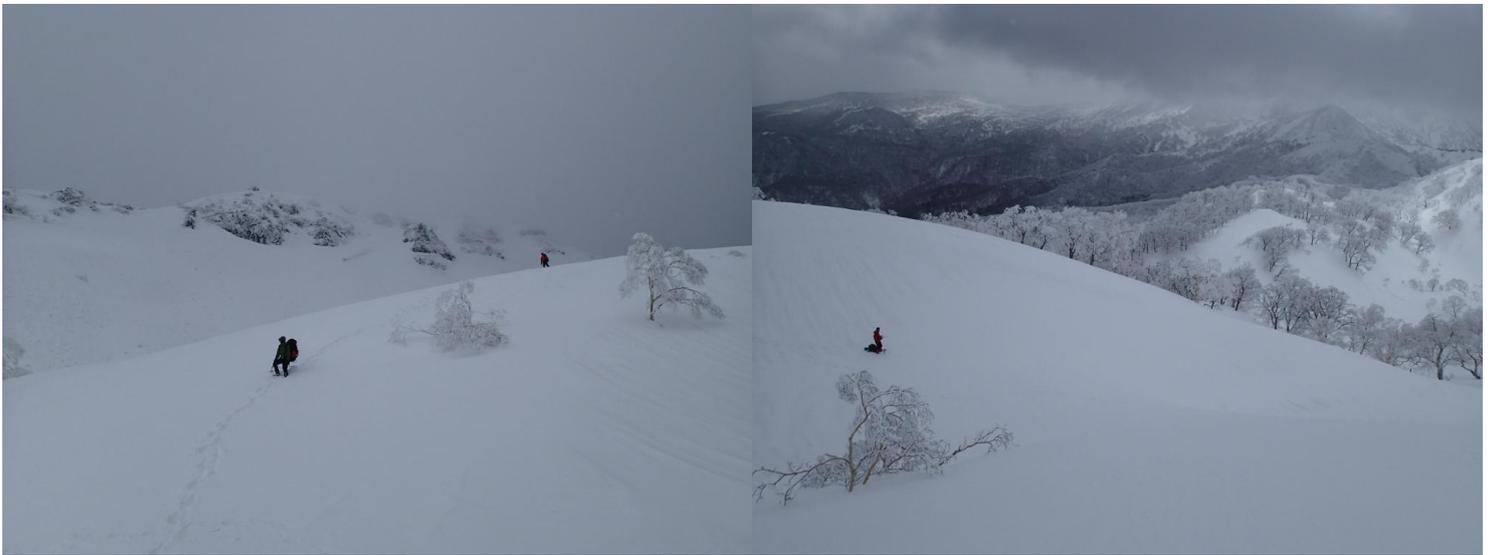
甲子山まで順調に進み旭岳の鞍部まで来たら雪庇が大きく発達してきて本格的な雪山らしい風景となる。

新道（とは言っても雪道なので適当に進む）から

そのまま旭岳の肩を目指して登るルートは雲に隠れたままで確認出来ず、

東面の状況をみながら坊主沼方面へまわり込み幕営。

非難小屋は雪に埋まり見つけることが出来なかった。



坊主沼付近の幕営適地



満開になった樹氷の森で掘り炬燵を作り、春を前に一足早い'花見'で鍋を囲み酒が進む。
北那須はブナやダケカンバが多く、おとぎ話に出てきそうなメルヘンチックな森でとてもいい雰囲気。

午後になったら予想以上に天候が回復し稜線もクッキリ顔を出したが
山のなかでゆっくり過ごす時間は至福のとき、たまにはこんな過ごし方も悪くない。

明日の晴天を期待し眠りについたが、夜は月明かりが眩しいくらい輝いていた。

昼過ぎから飲んで 18時30分消灯、例のごとく山で睡眠不足解消。
早く寝おちしまったせいか明け方は寒く一同寝付くことが出来なかった。。

3/16 (日) 晴れ

幕営地 6:00→旭岳 7:00→幕営地 8:30→甲子山→甲子温泉 11:20



快晴の朝、モルゲンロートに旭が染まる。

旭岳東面は北面とはまた一味違う表情をしており、那須らしからぬスケールでなかなか立派な姿だ。

山頂は右奥でルンゼを縫うように登ったが、稜線直下は膝が当たる程度の急斜面、雪が固くアイゼンの前爪をしっかりと利かせないと滑落しそうになり少し緊張するが特に難しさはない。

1時間程度で登りきってしまい少し拍子抜けしてしまったが、山頂からの展望は申し分なかった。

下りは同ルートをクライムダウンするには傾斜が強く、南尾根をまわり緩い斜面をみつけて下降し幕営地に戻った。





今回は元々沢登りがキッカケではじまった山行であったが、
四季折々様々な形態で登山を楽しみ、より広い視野で山の表情を観察していけば新しい発想が生まれていく。
実は身近な山域にも我々が知らないだけでまだまだとっておきのルートがあるのでは！？
と淡い期待を持たせてくれるような登山体系だった。
そういう意味でも未知の場所やルートに通用する術を今後どのように身につけていくか、
課題はたくさんあるだろう。